



# 君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ  
平成28年6月10日（金）

Vol. 3 2 9

## 小糸川遊漁祭り開かれる

秋元 秀夫

6月5日清和柿山田キャンプ場にて今年も小糸川遊漁の主催の祭りが開かれました。生憎小雨の降る日でありましたが、鈴木市長、高橋経済委員長、嶋田観光協会長、斉藤JA会長等を始めとして市内外の親子連れ300人余りの方達が参加されて、雨に濡れて光る若葉の中で良く育った虹鱒500尾余りとうなぎが大量に放流されて始まった遊漁祭りは子供達の大歓声、奇声が小糸川渓谷にこだましてにぎやかな遊漁祭りとなりました。

キャンプ場作本氏を始め地元の方々の大変なご協力の跡が見受けられ、改めてそのご苦勞に感謝と賞讃を送りたいと存じます。

村や町の観光、祭りが成功するコツは町内村内の全員が協力参加し、客を迎えることと出来ぬ所に成功不成功の差が生まれている感があります。

このFAX通信を通して川のルネッサンスを何度か訴えて参りましたが、人類は海から発生して川を上り、森に入って原人となったと伝えられる様に、人と水との係り合いは不可欠なものであります。人の文明もパリはセーヌ川、ロンドンはテムズ川、ウィーンはドナウ川、ワシントンはポトマック川、上海は黄浦江、江戸は隅田川、京都は加茂川等、世界の都市は川と共に栄えてきた歴史があります。君

津は小糸川凡そ60km、小櫃川77kmと言う二つの川を持って居り、関東大震災以前までは小糸川は粟倉から河口人見まで凡そ30カ所の舟河岸があつて集配基地があり、この舟運が村々の人と経済を繋いで小糸川は栄えて来たと言われ、古くから伝え聞いております。小櫃川も藤平家の屋敷絵に見られる様に、屋敷内から小櫃川中程まで橋がかかっているこの橋は荷舟への棧橋であり、この棧橋を通して遠く加茂大多喜辺りから小櫃川沿いの産物を集めて木更津港、江戸前舟へと木更津、久留里が連携して大きく栄えた時代がありました。日本の舟運はやがて鉄道の発達と共に消えてしまいました。

戦後日本は台風洪水で川が氾濫し、川からの被害が多かったのでコンクリートによって人と川とを隔絶する時代が続いて参りました。しかし隔絶することによって川はコンクリートと雑草木に覆われ、川は汚濁して川も海も魚も住まない時代が続いておりました。

ここ数年前より川のルネッサンス運動が世界各地で始まりました。川、水は人の命を密接な関係のある極めて大切なものであります。今の観光には、川と海は大切な資源、財産であります。

私達の君津は小糸川、小櫃川と言う二つの川を持ち、その美しさ、優しさ、豊かさ、そして縄文時代よりの伝説を持った素晴らしい川であります。それぞれの地域で住む人達が自分達の住む環境を良くするために外から来られる人達が羨ましいと言われるような川をきれいにしようではありませんか…きれいな川には実のなる木を植えて下さい。川のフルーツラインが日本に1カ所くらいあつてもいいではありませんか…この夏に川下りをしてみて下さい。遊漁祭りの皆さんありがとうございました。